

市政懇談会冒頭あいさつ

おはようございます。26年度の市政懇談会を開催いたしましたところ、本当に大勢の皆様方にお集まりいただきましてありがとうございます。

年に1回この時期ということで、開催をさせていただいておりますけれど、普段からも皆様方にはこのコミセン運営を始め、地域の活動に積極的に取り組んでおられます。また市政に対しましても、いろいろなご支援やご協力をいただいております。改めて感謝を申し上げたいと思います。

毎年申し上げておりますが、今日だけが市政懇談会という姿勢でやっているつもりはないと思っております。365日24時間と言えるかどうか別にしても、自治会やコミュニティで市民会議が設置されているわけでありまして。また直接緊急の場合いろんなケースがあると思っておりますけれど、皆様方がお気づきになった点、こういう事はやはりやるべきではないか、ここは早くやってくれとそう言うことについては、普段からもしっかりと皆様方の地域の実情やお考えを把握をさせていただいて、市政へ取り組まさせていただきたいと思っております。

したがって、今日だけではないということでありまして。しかしせつかくの懇談という事ですので、事前にもかなりのご質問やご提案をいただいているようですけれど、まとまった形で少し整理をするような形で意見交換が出来るのも、一つ有意義ではないかと私自身感じております。

私の方から、何点か市政に関する課題や問題点として考えていることについて、ご報告させていただいてご挨拶に変えさせていただきます。

震災から3年余り経過をしたわけでありまして。この田彦地区ではまだ下水道の復旧工事をしています。下水道につきましても、応急復旧から始まって本格的な復旧は一旦終わると言う方針だったわけでありまして、新たな不具合の箇所が上流の方でさらに見つかりまして、市内で数箇所まだ工事中のところがあります。下水道は非常に多額な財政負担が伴う事業でありますけれど、設置するにしても、また災害に対する強さという点でもなかなか難しいところがあると思っております。特にこの地域は大島公園があるように、地盤が決して強固なところではないという事も影響があると思っております。

つい先日、国の復興庁から復興交付金をひたちなか市でも1億3千万ぐらい交付されました。今頃何やっているんだと思われたかも知れませんが、1つ是那珂湊漁港のところに釣り公園とか、やはり海岸部がなかなか地盤等いろいろ問題がありまして、復旧が若干後になっているという事があります。それから海岸部と那珂川の河口のところに、監視カメラを置く津波対応が基本であ

りますけれど、3台置くに当たってすべて復興交付金の対象にさせていただきました。そういうこともありまして、まだ復旧について完全に終わっているわけでありませんが、基本的には今復興の方に歩を進めていると考えていただいて良いと思います。

なお、どういう優遇策をしているかという点、税制上の優遇措置という事で設備投資をする方、雇用を増やす企業については税制上の軽減措置を、いわゆる復興特区という形でひたちなか市でもやっております。やはりしっかりとした働く場所を確保することが、何よりも増して大切なこの地域の課題でありますので、取り組んでいることをご報告させていただきます。

そして、災害の問題でどうしても触れなければいけないことは、原発の問題、放射線の問題であります。今、東海第2原発の再稼働を巡っては周辺いわゆる30キロ圏内の市町村、それから水戸市を中心とする若干30キロを外れたところが1部入っていますが、全体で11市町村が足並みを揃えて、日本原電に対して申し入れをし、原子力の安全協定の見直しの取組みをやろうとしています。ただ日本全国で原発がゼロでいいのかとか、脱原発、反原発という単純な話ではもちろんないわけでありまして、私もそういう立場を取っているわけではありませんが、この地域の安全協定の見直しをするのも、残念ながらなかなか思うように今まで進んでいないことがあります。

どういう見直しかと言いますと、今までは原発の所在地というのは所在自治体、いわゆる行政界に囲まれた自治体、ですからここで言うと東海村、それから茨城県の2つが稼働やストップするとか安全に関わるいろいろな協議を受ける、また意見を述べる立場に立つ。ひたちなか市は情報提供を受けることは協定で結んでおりますが、再稼働に係る判断について加わる位置付けにはなっていません。福島第1原発の事故の状況を見れば明らかでありますけれど、30キロ圏と言わず、行政の境界線に何の意味もないというのが明白でありますから、ひたちなか市が東海第2原発の所在地域であると、11市町村どこも所在地域であると主張しています。

したがって今東海村と県が持っていた原発との係わりについて、当然我々も持つべきであるという事で、安全協定の見直しを今進めているところであります。ただ先ほど申し上げたようになかなか進まない部分もある中で、それでは安全審査をどうするかという事になったわけでありまして。私は市としても11市町村ほぼ同じ考え方でありましたが、安全審査をするべきであると判断をいたしました。これは使用済みの核燃料もありますし、あれも乾式のキャスクに入れて保存するようという要望もかねてからやっていますが、今、水に入れて冷却している状況でありますから、そういう意味で非常に使用済み燃料を含めて、施設上の安全対策はチェックをすべきであると思っております。

ただ再稼動と安全審査は全く別問題であると、また法律的にも制度的にも全く別問題でありますし、そう言う判断を我々はするべきだと思っております。

安全審査については説明を受けて、原子力規制委員会といろいろやり取りをする中で、いろんな疑問を持っておられる方や団体もあります。やはり議論がもう少し土俵に上がってその中でこれはどうなんだと、むしろ世論喚起する方が分かりやすいのではないかと思っております、情報提供はしっかり行うように併せて申し入れをしているところであります。

ここはすっぽり 10 キロ圏内に入ってしまうところであり、施設に絶対と言うことはありませんから、また人がやっていることでありますから万一の事は想定せざるを得ないです。そうしますと避難計画を作る必要があるのです。しかしその避難計画が果たして実効性のある避難計画が作れるかどうか、出来るかどうかというのは、今、非常に苦しんでいるというのが本当のところであります。今、広域的な調整をしなければいけない問題でありますから、県が一応音頭をとってやろうとしています。5キロ圏内の方がまず避難をして、これはほとんど車で避難をすることになりますが、5キロ圏内の方が避難をした後に、我々が避難することが本当に現実的に出来るのか。何十時間かかるのか。まして今日のご質問の中にありますが、普段一人暮らしの方にはなかなか自立的な生活が難しい方もいらっしゃるし、施設があつたり病院があつたりする訳でありますから、全ての方が安全かつ速やかに避難するのは非常に困難。それも 30 キロ圏内に 98 万人の方が住んでいる全国 1 の集中地域でありますから、我々は我々としての地域としての判断を求められていると認識をしていますし、そのような協定を確実に結ぶようにしっかりやって行きたいと思っております。

その他の課題について、数点だけ述べさせていただきたいと思えます。皆様方どうお考えになるかわかりませんが、実はひたちなか市内も商店街がかなり寂しいと、今に始まったことではないと言われればそうかも知れませんが、全国の地方都市は大体シャッターが下りているところが多くなっています。これは大型店の影響がもちろんありますし、それから各商店は、ほとんど家族経営ですので、跡継ぎがない時点でもう先が考えられないですね。鶏、卵の関係かも知れませんが、跡継ぎは別な教育を受けさせて、別な仕事をさせる人も出てくる訳です。それでいいのかどうかという問題も実はありまして、ひたちなか地区にコストコがオープンをしました。会員の方もいらっしゃると思いますが、大型店が出てくると、市内の商店への影響がかなり急激且つ大きいわけでありまして、商工会議所を含めひたちなか市としても、これ以上ひたちなか地区に大型店はいないという基本的な姿勢にたっています。消費者の方から見ると選択の幅が広がる訳ですから、何が悪いんだと言う人がいてもおかしくはない訳ですけれど、ただ街のあり方を考えたときに大きな問題と思ってい

ます。

何をやろうとしているかと言いますと、商工会議所が来年3月を目途にまちづくり会社を作りまして、新たに商店街、佐和もそうですし湊の方もですけど、新たに商売をしようとしてもその建物は個人の、今までやっていた人の物ですから、それをうまくそこで開業するための後押しをするような仕組みやルールを作る。またどんな商売が適しているのか。そういう事を後押しする会社を作ってやろうじゃないか。なぜかと言いますと、ある人からも言われた何人かからも同様な趣旨のことを言われたのですが、今間違いなく高齢化社会です。少子化でもあります。その中で高齢者の一人暮らし、ご夫婦だけの世帯に対する対応の課題は大きいわけではありますが、例えば今65歳までサラリーマン、70歳まで勤める人も増えてくるのではないかなと思われましますが、なかなか65歳まで会社人間をやってきて65歳から地域で活躍すると言っても、得意な人ばかりではないです。ですからシルバー世代がどこか過ごせる空間とか公共スペースとか、今若干図書館がそういう場所になっていますが、街うちにもうちょっとそういう意味で商店街を一つの核にする、病院も建て替わりまして、来年を目途に国の指定を受けて癌の連携指定病院になるという、癌の放射線治療センターがこの4月から出来て、全国で5本の指に入る先生がセンター長で来られたという事もありまして、癌の診療について治療はかなりアップするのではないかと思っています。病院やマンションも回りに増えていますが、人口が増える中で、やはり歩ける街、商店ということをもう一度見直した方が良いのではないかと、そんなことで今取り組んでいるところです。

片方でひたちなか地区は、これ以上大型店は必要ないという考え方で、この4月1日から国有地40ヘクタール弱を市が無償で借り受けることになりました。この理由は、地元の市が中心で考えてくれるのが一番良いという事でありましたから、当面今は7ヘクタールについて伐根整地して、まもなく8月に始まりますロックフェスの駐車場、産業交流フェアの駐車場やネモフィラ、コキアの時期の国営公園の駐車場が、絶対的に足りなくなっていますから駐車場にする。それから多目的な広場地して地元の方に活用していただく。さらに残りの30町歩をどうするか、これについては皆さん方のご意見を頂戴しながら、商工会議所でも検討しようとしています。なかなか皆様方も行く機会、直接見る機会が少ないと思いますが、実は常陸那珂港は国内3航路、北海道とは1日2便船が行き来しています。国外は14航路定期航路があるのです。1週間に1便とか2週間に1便とか頻度の問題はありますが定期化されております。思いのほか物流があります。それを意識してコマツさんや日立建機さんが来た状況を見てもわかるように、物の動きの中で重要な役を常陸那珂港が占めています。毎年予算がついて整備をしているので、やはりあそこにもっと業務の機能、もの

づくりを含めたいろんな産業機能を支援する展示場みたいな構想も昔はあったのですが、そういうものを整備していった方がいいのではないかと考えております。

田彦中学校区の人から見たら、あまり関係がないと思っているかもしれませんが、実は公共交通も重要なテーマになっておりまして、スマイルあおぞらバスが走っています。もう少し頻度がよければ頻繁に来ればもっと利用するのにという感じだと思いますが、なかなかバランスも微妙であります。またまたご意見があらうかと思いますが、湊線も実は今年の10月に新しい駅ができるのです。柳が丘団地のところですが、ゆくゆくは今阿字ヶ浦で止まっているのを、国営公園やひたちなか地区にもって来た方が良いのではという考えも出てきていました。そうするとぐるりと回れるような、一つの交通体系が出来るのではないかと考えておりますが、そんなことも今ひたちなか市で取り組んでおります。

最後に、やはり間違いなく高齢化社会になっておりまして、子どもが少なくなっています。小学校1年生に入学する子どもの数を見ても、1,200人前後という事でありまして、一番多いときは2,000人を超えていたはずでありますし、亡くなる方と生まれる方の状況を見ていっても、やはり高齢社会でありますから、人口はなかなか増える状況はひたちなか市でさえも難しいと思います。ですから、人口は増えなくても世帯数は増えるという現象があるのです。過疎地域は人口は減りながら世帯数が増える不思議な状況が、この近辺で起きています。一人暮らし2人暮らしが増えておりますから、日常的にも課題がお持ちだろうとっております。

小地域ネットワークに対するご意見もいただいているようでありますが、ひたちなか市も何人かのチームで、見守りをさせていただくという一つの理想論かも知れませんが、今までは何とかやろうとして来ました。でもなかなか高齢社会で自治会に入る人も少なくなっている、加入率が若干低下しているのではないかとと思いますし、高齢者クラブも、高齢者が増えているのに高齢者クラブの会員数は増えないところか若干ながら減る状況なのです。ですから一人一人ばらばらになってきている状況の中で、どういう風に支えあうかというのは本当に大きな問題だと思います。これも理想論に聞こえるかも知れませんが、できれば若い人達が、ここに働く場所があつて家庭を作り家族を持って、三世代で住むのは大変かもしれませんが、なるべく三世代が近くに住んで支え合うこと、働く場合に子どもをおじいさんばあさんに見てもらおう。熱が出たらこの位なら大丈夫だとおばあさんに言ってもらおうことが昔はあったと思うのですが、そう言うことが今はなくなりました。救急の出動も非常に多いのも、そう言う心配が小さな家庭単位で抱えているものですから、なかなか相談する人がいないと

言うこともおきています。空き家も増えてきていますから、高齢社会に対応した行政がやらなければいけないことはしっかり行政がやる、皆様方に取り組んでいただける部分については、そうすればかなりきめ細かに出来ることについては、皆様方に役割を持っていただくのが私は必要だと思っています。少しずつうしい言い方かも知れませんが、そのような街でなければ、これからの地域社会がうまく回らないのではと思います。

少し長い挨拶になりましたが、随分事前にたくさん質問をいただいているので、貴重な時間であります。有意義な意見交換、懇談会にして参りたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございます。

H26.6.28（市政懇談会 3 日目）